

厚生労働省科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）
「拠点病院集中型から地域連携を重視した HIV 診療体制の構築を目標にした研究」
平成 30 年度 分担研究報告書

【研究分担課題】患者が地域の保険薬局を選んだ時に対応できるシステム作りに関する研究
研究分担者 鈴木貴明 千葉大学医学部附属病院薬剤部 副薬剤部長

研究要旨：処方箋に基づき薬剤を調剤・交付する役割のある保険薬局において、
地域連携を図る際の課題を明白とするとともに、実践可能なモデルや方法を提案する。

A．研究目的

現在、抗HIV薬の調剤はHIV診療拠点病院周辺の保険薬局を中心に行われている。今後地域連携が推進された場合、患者が地域の保険薬局での調剤を希望することも想定される。このような場合にすべての保険薬局がスムーズに抗HIV薬の調剤に対応できるシステムを構築する。

B．研究方法

千葉県内の自立支援医療(更生医療)指定薬局数、所在地を調査した。また現在、抗HIV薬を調剤している保険薬局に対し、薬剤の在庫管理状況、服薬指導の実際、病院との連携体制について実地調査を行った。これらに基づき、千葉県内外の自立支援医療(更生医療)指定薬局に対するアンケート調査を行った。なお、アンケート調査は千葉大学大学院医学研究院倫理審査委員会の承認を受けて(受付番号3282)行った。

C．研究結果

千葉県内の自立支援医療(更生医療)指定薬局は全薬局の約4割であり、人口密度ならびにHIV診療拠点病院の立地や自立支援医療免疫機能障害患者の居住地にほぼ相当する配置であった。

千葉県内外の自立支援医療(更生医療)指定薬局に対する実地ならびにアンケート調査の結果、抗HIV薬の在庫管理について課題があること、抗HIV薬の服薬指導時には他疾患治療薬とは異なる特有の課題があることが明らかとなった。

D．考察 E．結論

自立支援医療の指定を受け抗HIV薬の調剤に対応できる薬局は千葉県下の広範囲に立地するため、地域の保険薬局での薬剤受け取りを希望する患者の要望に応えることができると考えられた。

また、本調査よりHIV薬の調剤・服薬指導においてはHIV診療拠点病院との風通しの良い関係が図られることが望ましいと考えられた。また薬局間のみな

らず病院や薬剤師会と抗HIV薬の在庫や在庫情報の共有が図られることで、高額医薬品である抗HIV薬の在庫管理への不安が軽減できる可能性が示唆された。

G．研究発表

1. 論文発表 未定
2. 学会発表 第33回日本エイズ学会学術集会・総会にてアンケート調査の結果を発表予定

H．知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得
予定なし
2. 実用新案登録
予定なし
3. その他
特になし